



Nishikie Kindergarten Phone 63-2038 Fax 63-2034



いよいよ本番！ 乞うご期待!!

いよいよ今週末は、運動会。日曜日の度に賑やかな歓声と子どもたちの声が響き渡るこの時期。

運動会というと、人様々に思い出があるでしょう。運動が得意だった人には懐かしく思い出されるでしょうが、走るのが苦手だった（遅かった）人にとっては苦痛以外の何ものでもなく、あんなふうに速く走れたらどんなによいだろうと、足の速い人を羨んでいた記憶がよみがえってくるかもしれません。しかし、顧みれば、速く走れなかったからこそ得たものもあるのではないのでしょうか。

たとえば今、運動が苦手な子どもの気持ちにぴったりと寄り添って助言をすることもできるはずで、それは足が速かった人には難しいことです。だから他人の才能に心奪われ、自分にないからと卑屈になる必要はないのです。むしろ、その人の知らないことを知っている、その人が見えない世界が見えることに自信をもてばいいのです。

劣等感や弱みを抱えたものでなければ見えないもの、感じられないものがあり、それを大切にするとともに、人間としての深みが増していくのではないのでしょうか。

当日は、子どもたちの輝く笑顔と真剣な眼差しに、お父さんもお母さんもみんな釘付けです(^^)/



お遊戯も段々上手に踊れるようになってきました(^_-)



リズムを取りながら隊形も考えて動きます。

(>_<)むずい



最後は、かっこよくVの字になってフィナーレ!!

かっこよく決められるかなあ!?

子どもの心を知るための 目配り・気配り

好きなことに対する人間の集中力、その時の脳の活性化は、すさまじいものがあります。

「うちの子はマンガばかり読んでいて・・・」と嘆く親は多いと思いますが、考えてみてください。一冊のマンガ週刊誌には20本前後の作品が掲載されており、もし週にメジャー誌の5冊を読んでいたとすれば、100本近くにもなります。それほどの数なのに、次の週になれば、前号を読み返さなくても続きが理解できるのです。マンガを読むのに予習や復習はしないのです。素晴らしい集中力と記憶力があるのがわかると思います。

人間の脳とはこのように、好きなことには驚くほどの能力が働くのです。マンガが好きで養われた集中力と記憶力は、きっと別の分野でも力を発揮できるでしょう。最初は勉強やスポーツなど、なかなか親が希望する分野にその能力がいかされないかもしれませんが、好きでやったことは、確実に子どもの能力を磨きます。

子どもの興味に合わせ、向いていることを率先して教えてあげる。そんな極意は、気長につきあってあげることだと思います。

子どもの才能がどのような分野で花開き、何に興味をもつようになって、夢を抱くのか。反



対に、何が苦手で、嫌がっているのか。そうしたサインは、スポーツなど何かしらの行動を起こしたときに発せられることが多く、注意深い「気配り」によって見つけ出すことができます。そして、伸ばすところを伸ばし、夢を大きくふくらませてあげるような育て方ができるようになるのです。

得手も不得手もない子どもは、いません。「うちの子は才能がなくて」「感情の起伏に乏しくて」というのは、「気配り」がないために子どものサインを見逃し、良いところを伸ばしてやることができなかつたからです。

「目配り」で成長の度合いを知り、「気配り」で心のサインを受け取る。それによって初めて子どもの「出る杭」が発見でき、大きな夢への一歩となるのです。トンボのような複眼で観てあげられるといいのかもしれないね。(^-)

実りの秋

園庭の東側にある田んぼ。子どもたちが5月に粃をまき、しろかきをして6月に田植えをして早4か月を迎えようとしている。まさに収穫の時を待っているのです。

何事においても、じかに見て、聞いて、触ってみなければわからないもの、現地、現場でしか感じられないものがあるのです。

お互い、間接的に見たり聞いたりただけで、分かったつもりになっていることはないか。子どもたちの遊びの中で、「なんで？」という「つぶやき」に考えさせられることが多い毎日です。

